

# がん検診のススメ

## がん検診の概要

日本において「がん」は1981年以来死因の第1位であり、生涯のうちに2人に1人はがんに罹患し、3人に1人ががんで死亡する時代とされています。2006年にがん対策の一層の充実を図るため「がん対策基本法」が成立し、2007年にはがん対策の総合的かつ計画的な推進を図るため「がん対策推進基本計画」が策定されました。現在、死亡率の減少、生存率の向上など一定の成果が得られたものの、目標達成（がん検診受診率50パーセントなど）には至っておらず、一層の努力が求められています。そして、対策型がん検診は「健康増進法」に基づき、市町村の事業として行われています。

今回、このシリーズでは5大がん一胃がん、大腸がん、肺がん、子宮がん、乳がんの検診について紹介していきます。

## 胃がん検診

胃がんは罹患数、死亡数ともに部位別で第3位のがんであり、早期発見・早期治療はがん対策上重要な問題の1つです。胃がんは早期発見されれば内視鏡治療のみで根治が可能で、胃を切除せずに済みます。胃を切除すると5から10 kilogramsの体重減少があり、その後の食生活、健康維持に大きな影響を与えるため、早期発見が特に大切です。

今回国の指針が改訂され、50歳以上の方を対象に2年に1回胃部X線検査（バリウム）または胃内視鏡検査を行うことになりました。当分の間、胃X線検査に関しては40歳以上の方を対象に1年毎の実施が可能となっていますが、町では令和5年度より、40歳以上の方を対象に2年に1回の検診としています。

胃がん検診には2つの方法があり、受検者はいずれか一方を選択することができます。1つ目は内視鏡検査です。がんの発見率が高く推奨されており、食道炎、胃炎、潰瘍など良性疾患の把握やピロリ菌の有無の推定ができる利点がある一方、病院に行かないとできない、苦しいなどの欠点があります。軽井沢病院では細径内視鏡を導入し「苦しくない内視鏡検査」を目指しています。2つ目の胃X線検査は、がんの発見率が劣るものの、苦しくない、検診車でできる（遠くまで行かなくて済む）などの利点がありますが、胃X線検査は高齢者や高度便秘症の方にはお勧めできません。どちらを選ぶにしても、まず検診を受けていただくことが一番大切です。健康で長生きするためにも、がん検診を積極的に利用しましょう。

軽井沢病院副院長 中村 二郎

